

平成 31 年 2 月 26 日

各都府県・指定都市(札幌市を除く)教育委員会学校安全主管課
各 都 府 県 私 立 学 校 主 管 課
附属高等学校及び中等教育学校を置く各国公立大学法人事務局 御中
構造改革特別区域法第 12 条第 1 項の認定を受けた
各 地 方 公 共 団 体 の 学 校 設 置 会 社 担 当 課

文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部参事官
総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課

「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道」の開催について（事前通知）

昨年 10 月に「世界津波の日」（11 月 5 日）の国内イベントの一つとして、和歌山県和歌山市で高校生サミットが開催されましたが、本年は、9 月 10～11 日に北海道において、「世界津波の日」高校生サミットが開催されることとなりました。

現在、北海道をはじめ関係機関等で具体的な事業内容について検討が進められているところです。

については、貴管内の高等学校及び中等教育学校に対し、さらに各都府県教育委員会においては、域内の市区町村立高等学校及び中等教育学校を設置している市区町村教育委員会に対し、本サミットの開催の周知をお願いします。

特に、津波に関する防災教育に取り組むなど、本行事の趣旨に適した学校に対しては、開催概要（案）を確認していただき、参加を希望するか検討いただくよう、あわせて、周知をお願いします。

なお、参加希望校及び参加希望人数については、本年 4 月以降に改めて調査する予定です。

【添付資料一覧】

（別紙）「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道 開催概要（案）
（参考）「世界津波の日」2018 高校生サミット in 和歌山 報告書（抜粋）

【参考 URL（過去の「世界津波の日」高校生サミット）】

「世界津波の日」2018 高校生サミット in 和歌山 公式ホームページ
<https://www.tsunami2018wakayama.telewaka.tv/>
「世界津波の日」2017 高校生島サミット in 沖縄 公式ホームページ
<http://www.okinawa-congre.co.jp/tsunami-summit2017/>
「世界津波の日」高校生サミット in 黒潮 公式ホームページ
<http://www.town.kuroshio.lg.jp/pb/cont/summit-japanese>

【問合せ先】

文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部
参事官（施設防災担当）付
津波対策推進係（三好・田井中・永嶋）
電話 03-5253-4111（内線 3184）
E-mail : bousai@mext.go.jp

High School Students Summit on “World Tsunami Awareness Day” 2019 in Hokkaido

(案)

別紙

「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道

9 / **10** • **11**
Tue Wed

会場・北海きたえーる

(北海道立総合体育センター)

北海道札幌市豊平区豊平5条11丁目1-1



『世界津波の日』2018高校生サミット和歌山～総会



奥尻町～北海道南西沖地震の慰霊碑「時空翔」



札幌市～北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）



浜中町～霧多布湿原

主催 北海道 北海道教育委員会

「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道

開催日程

2019年9月10日（火）、11日（水）

開催場所

北海道立総合体育センター「北海きたえーる」

※ レセプションは札幌パークホテル（札幌市中央区南10条西3丁目1-1）を予定

プログラム

※プログラムは変更となる可能性があります

◆ 9月10日（火）

[午前] 分科会ブリーフィング

[午後] 開会式、分科会

[夕方] レセプション

◆ 9月11日（水）

[午前] 記念植樹

[午後] 総会・閉会式（14時頃終了予定）

参加者見込み

海外参加者	生徒・引率	約270名（44か国(予定)）
国内参加者	生徒・引率	約170名
	合計	約440名

【参考】関連行事:スタディツアー(海外参加者のみ)

主催	公益財団法人日中友好会館 他
日程	9月7日（土）～9日（月）
参加人数	海外参加者 生徒・引率 約270名
訪問候補地	2班に分かれ、それぞれの訪問地において防災・減災を学ぶとともに、地元高校生との交流や北海道の文化と自然に触れる。 〔1班〕 奥尻町、倶知安町、洞爺湖町、壮瞥町 など 〔2班〕 釧路市、浜中町、上富良野町、美瑛町 など

「世界津波の日」2019高校生サミット in 北海道

11月5日の「世界津波の日」は、津波の脅威と対策について理解と関心を深めることを目的に、2015年12月の国連総会において、日本が提唱し、我が国をはじめ142か国が共同提案を行い、全会一致で採択されました。

翌2016年からは、世界各国の高校生が津波の脅威と対策について学ぶ場として、「世界津波の日」高校生サミットが開催されており、2016年の高知県では「黒潮宣言」、2017年の沖縄県では「若き津波防災大使ノート」、そして、昨年の和歌山県では「稲むらの火継承宣言」が採択されています。

本年は、ここ“北の大地”北海道において、地震や津波などの災害から国民の生命、身体、財産の保護、国民生活及び国民経済に及ぼす影響を最小化できる国土強靱化を担う将来のリーダーの育成と、世界各国の「きずな」を一層深めることを目的に「世界津波の日」2019高校生サミット in 北海道を開催します。

WORLD
TSUNAMI
AWARENESS
DAY
5 NOVEMBER
2018



参考
(報告書より抜粋)

「世界津波の日」2018 高校生サミット in 和歌山 ～「稲むらの火」発祥の地で濱口梧陵の精神を共に学ぶ～

報 告 書



2. 開催概要

1. 開催趣旨

11月5日の「世界津波の日」は、津波の脅威と対策について理解と関心を深めることを目的に、2015年12月の国連総会において、日本が提唱し、我が国をはじめ142か国が共同提案を行い、全会一致で採択されたものです。

この日が「世界津波の日」とされたのは、安政元年（1854年）11月5日、安政南海地震による津波が現在の和歌山県広川町を襲った際、和歌山県の先人である濱口梧陵が稲むらに火をつけ、津波から逃げ遅れた村人を高台へ導いて、多くの命を救った故事にちなんだものです。

濱口梧陵は村人の命を救っただけでなく、その後、村人を雇い莫大な私財を投じて村の再生を支援し、将来の津波に備えて堤防を築きました。この堤防は昭和21年12月の昭和南海地震による津波の被害を最小限に抑えました。

これら「稲むらの火」の故事は、防災について考えるべき3つの要素、①人命救助、②地域の復興、③将来の防災能力を高めること、を全て含んでいます。

地震津波などの自然災害から住民の命を守るためには、世界各地で防災の知見と災害の脅威への深い認識の下、必要な防災、減災、迅速な復旧復興、国際連携に資する施策を総合的かつ計画的に実行することが重要です。

このため、地震津波などの災害から国民の生命、身体、財産の保護、国民生活及び国民経済に及ぼす影響を最小化できる国土強靱化を担う将来のリーダーを育成することを目的とした「世界津波の日」高校生サミットが創設され、一昨年は高知県で、昨年は沖縄県で開催されてきたところです。

高知県においては、30か国の高校生が参加し、「黒潮宣言」が採択されました。沖縄県においては、島しょ国を中心とした26か国の高校生が参加し、「若き津波防災大使ノート」がとりまとめられました。

和歌山県では、津波予測システムを活用した緊急速報メールによる避難の呼びかけや避難場所安全レベルの設定など、先進的な津波対策とともに、毎年、直近の大災害の分析も加えて津波防災講演会を開催し、県民の津波防災意識の向上に努めています。また、一昨年、国において創設された濱口梧陵国際賞受賞者の本県招聘等を通じ、「稲むらの火」の故事を全世界に広めるよう努めています。

濱口梧陵が生まれ活躍した舞台である和歌山県は、「稲むらの火」発祥の地として、今後も「世界津波の日」制定の由来となった濱口梧陵の精神を全世界に発信し、次世代に過去の災害の教訓を伝えることで、津波防災意識をさらに向上させていきます。

過去2回の高校生サミット開催の精神を受け継ぎ、本年は「世界津波の日」ゆかりの地であるここ和歌山県に日本を含む世界各国の高校生を招き、防災分野における将来のリーダーを育成するとともに、災害から世界中の人々の命を守ることを目的に「世界津波の日」2018高校生サミットin和歌山を開催します。

2. 主催

和歌山県、和歌山県教育委員会、広川町、広川町教育委員会

3. 共催

国連国際防災戦略事務局（UNISDR）駐日事務所

2. 開催概要

4. 後援

国土強靱化推進本部、内閣府政策統括官(防災担当)、外務省、文部科学省
国土交通省、気象庁、経済協力開発機構(OECD)
東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)、国立大学法人 和歌山大学、JICA

5. 開催日

2018年10月31日(水)～11月1日(木)

6. 会場

和歌山ビッグホエール
[住所]和歌山市手平2丁目1-1

7. 参加者

479名

海外招聘者 293名(高校生244名 引率49名/参加国47カ国)

国内参加者 186名(高校生134名 引率52名/参加高校49校)

8. 使用言語

英語

9. テーマ、分科会

(1) 全体テーマ

災害から命を守る

～「稲むらの火」発祥の地、和歌山で濱口梧陵の精神を共に学ぶ～

(2) 分科会の分野

①災害について知識を得る

過去の災害からの学び、先人の教え、災害のメカニズムや被害想定等

②災害に備え意識を高める

学校や住まいの防災・減災対策、防災意識の向上、防災訓練等

③災害から生き抜く

避難行動、安否確認、情報収集、避難所運営、復旧・復興等

3. スケジュール

10月31日 (水)	
9:30 ~ 11:45	分科会ブリーフィング
11:45 ~ 12:45	昼食
【開会式】	
12:45 ~ 13:05	開式 (高校生議長)・参加国紹介
13:05 ~ 13:15	主催者挨拶
13:15 ~ 13:35	スタディーツアー報告
【記念植樹・記念碑除幕式】	
14:20 ~ 14:35	記念植樹・記念碑除幕式
15:05 ~ 15:15	記念撮影
【分科会】	
15:25 ~ 16:45	分科会 (各校からの発表・質疑応答等)
【レセプション】	
18:00 ~ 20:00	レセプション

11月1日 (木)	
【分科会】	
9:30 ~ 12:00	分科会 (ディスカッション・グループ総括等)
12:00 ~ 13:00	昼食 (兼 宣言文検討会)
【講演】	
13:00 ~ 14:00	津波防災講演会
【総会・閉会式】	
14:20 ~ 14:35	オープニングアトラクション
14:35 ~ 14:37	総会開会宣言 (高校生議長)
14:37 ~ 15:12	主催者挨拶・共催者挨拶・提唱者挨拶・来賓挨拶
15:12 ~ 16:40	分科会報告
16:40 ~ 16:45	大会宣言
16:45 ~ 17:00	閉会式・閉会宣言

4. 参加高校一覧

海外参加高校一覧

番号	国名	学校名	参加人数						合計
			生徒		引率				
			男子	女子	男性	女性			
1	アルゼンチン	Normal School "Juan Garcia de Cossio"	5	2	3	1	0	1	6
2	オーストラリア	Broome Senior High School	5	1	4	1	0	1	6
3	ブラジル	School for Basic Education Professor João Widemann	5	1	4	1	1	0	6
4	ブルネイ	Maktab Duli Pengiran Muda Al-Muhtadee Billah College	5	2	3	1	0	1	6
5	カンボジア	KEO POSH	5	2	3	1	1	0	6
6	カナダ	Alberni District Secondary School	5	0	5	1	0	1	6
7	チリ	Colegio Arica College	5	2	3	1	1	0	6
8	中国	Cuiying Middle School of Jimo Qingdao	10	4	6	2	1	1	12
9	コモロ	Said Mohamed Cheik Le Phare Mougini Baraka	5	3	2	1	1	0	6
10	クック諸島	Tereora College Nukutere College Titikaveka College Papaaroa Adventish School	5	0	5	1	0	1	6
11	デンマーク	Rysensteen Gymnasium	5	3	2	1	1	0	6
12	フィジー	Koro Island High School	5	3	2	1	1	0	6
13	ギリシア	2ND GENERAL LYCEUM AGGELOS SIKELIANOS	5	4	1	1	1	0	6
14	インドネシア	SMAN 2 Banda Aceh	10	2	8	2	1	1	12
15	キリバス	King George The fifth and Elaine Bernacchi School	5	2	3	1	0	1	6
16	ラオス	Vientiane high School	5	2	3	1	0	1	6
17	マレーシア	Sekolah Menengah Sains Tengku Muhammad Faris Petra	5	2	3	1	0	1	6
18	モルジブ	Ahmadhiyya International School Center for Higher Secondary Education Billabong High International School	5	2	3	1	0	1	6
19	マーシャル	Laura High School	5	2	3	1	1	0	6
20	メキシコ	University of guerrero	5	1	4	1	0	1	6
21	ミクロネシア	Outer Islands High School	5	4	1	1	1	0	6
22	モンゴル	Mongolian-Russian Joint School Primary, Middle and High School No.6 of skhubaatar district in Ulaanbaatar	5	2	3	1	0	1	6
23	ミャンマー	No.2 Basic Education High School, Laputta	5	3	2	1	1	0	6
24	ナウル	Nauru Secondary School	5	2	3	1	0	1	6
25	ネパール	Mahendrodaya Secondary School Madi Secondary School Sahid Smriti Awasiya Secondary School Janata Secondary School Laligurans Batika Secondary School Motherland School	5	3	2	1	1	0	6
26	ニュージーランド	Heretaunga College Upper Hutt College	5	0	5	1	0	1	6
27	ニウエ	Niue High School	5	3	2	1	1	0	6
28	パラオ	Palau Mission Academy	5	1	4	1	0	1	6
29	パプアニューギニア	Port Moresby National High School	5	3	2	1	1	0	6
30	パラグアイ	Colegio Japonés Paraguayo	5	2	3	1	1	0	6
31	ペルー	Colegio Mixto Público Nacional Callao	5	3	2	1	1	0	6
32	フィリピン	Bienvenido Guillera Celebre National High School	5	2	3	1	1	0	6
33	ポルトガル	Escola Secundária Ferreira Dias Agulva-Sintra	5	1	4	1	0	1	6
34	大韓民国	Incheon Daegun High School	4	4	0	1	1	0	5
35	サモア	St. Mary's College	5	0	5	1	0	1	6
36	シンガポール	Temasek Junior College	5	1	4	1	0	1	6
37	ソロモン	White River Community High school	5	2	3	1	0	1	6
38	スペイン	IES Belén	5	3	2	1	0	1	6
39	スリランカ	Rahula College Sujatha Vidyalyaya Richimond College, Galle	5	2	3	1	0	1	6
40	タイ	Koh yao wittaya school	5	1	4	1	0	1	6
41	トンガ	Tonga High School	5	5	0	1	1	0	6
42	トルコ	ISTANBUL ATATURK HIGH SCHOOL OF SCIENCE	5	0	5	1	0	1	6
43	ツバル	Motufoua Secondary School	5	3	2	1	1	0	6
44	米国	WAI'ANAE HIGH SCHOOL	5	3	2	1	0	1	6
45	バヌアツ	Central School	5	2	3	1	1	0	6
46	ベネズエラ	COLEGIO SAN JOSE HH MARISTAS	5	2	3	1	1	0	6
47	ベトナム	Yen Hoa Cau Giay	5	3	2	1	0	1	6
			244	100	144	49	23	26	293

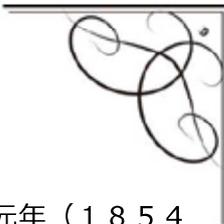
4. 参加高校一覧

国内参加高校一覧

番号	都道府県	学校名	参加人数						合計
			生徒		引率				
			男子	女子	男性	女性			
1	北海道	北海道浦河高等学校	3	0	3	1	1	0	4
2	北海道	学校法人札幌日本大学学園 札幌日本大学高等学校	3	0	3	1	1	0	4
3	岩手県	岩手県立釜石高等学校	2	0	2	1	0	1	3
4	岩手県	岩手県立宮古工業高等学校	3	3	0	2	1	1	5
5	岩手県	学校法人龍澤学園 盛岡中央高等学校	3	0	3	1	1	0	4
6	宮城県	宮城県仙台第一高等学校	3	2	1	1	1	0	4
7	宮城県	宮城県多賀城高等学校	3	0	3	1	1	0	4
8	栃木県	栃木県立佐野高等学校	1	1	0	1	1	0	2
9	埼玉県	埼玉県立不動岡高等学校	2	0	2	1	1	0	3
10	千葉県	千葉市立稲毛高等学校	3	2	1	1	1	0	4
11	東京都	東京学芸大学附属国際中等教育学校	3	0	3	1	0	1	4
12	東京都	学校法人富士見丘学園 富士見丘中学校高等学校	2	0	2	1	1	0	3
13	神奈川県	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	2	1	1	1	1	0	3
14	静岡県	静岡県立池新田高等学校	2	0	2	1	1	0	3
15	静岡県	静岡県立裾野高等学校	2	0	2	1	1	0	3
16	京都府	学校法人立命館 立命館高等学校	3	0	3	1	1	0	4
17	大阪府	大阪教育大学附属高等学校平野校舎	3	0	3	1	1	0	4
18	大阪府	大阪府立西成高等学校	2	2	0	2	1	1	4
19	大阪府	学校法人大阪学園 大阪高等学校	3	1	2	2	2	0	5
20	大阪府	学校法人関西学院 関西学院千里国際高等部	3	1	2	1	0	1	4
21	大阪府	学校法人創価学園 関西創価高等学校	3	0	3	1	1	0	4
22	兵庫県	神戸大学附属中等教育学校	3	0	3	1	1	0	4
23	兵庫県	兵庫県立尼崎小田高等学校	4	0	4	1	1	0	5
24	兵庫県	兵庫県立舞子高等学校	2	2	0	1	1	0	3
25	奈良県	奈良県立畷傍高等学校	3	1	2	1	1	0	4
26	奈良県	学校法人西大和学園 西大和学園中学校・高等学校	3	1	2	1	0	1	4
27	和歌山県	和歌山県立海南高等学校	3	0	3	1	1	0	4
28	和歌山県	和歌山県立串本古座高等学校	4	0	4	1	1	0	5
29	和歌山県	和歌山県立新宮高等学校	2	0	2	1	1	0	3
30	和歌山県	和歌山県立星林高等学校	3	0	3	1	0	1	4
31	和歌山県	和歌山県立耐久高等学校	4	1	3	1	1	0	5
32	和歌山県	和歌山県立田辺高等学校	2	0	2	1	1	0	3
33	和歌山県	和歌山県立橋本高等学校	3	0	3	1	1	0	4
34	和歌山県	和歌山県立日高高等学校	4	0	4	1	1	0	5
35	和歌山県	智辯学園和歌山高等学校	3	0	3	1	1	0	4
36	岡山県	岡山県立井原高等学校	3	1	2	1	0	1	4
37	広島県	広島県立広島中学校・広島高等学校	2	0	2	1	1	0	3
38	徳島県	徳島県立城南高等学校	3	3	0	1	1	0	4
39	愛媛県	愛媛県立宇和島東高等学校	2	1	1	1	1	0	3
40	愛媛県	愛媛県立西条高等学校	3	3	0	1	1	0	4
41	高知県	高知県立清水高等学校	3	1	2	1	1	0	4
42	高知県	高知県立中村高等学校	2	1	1	1	0	1	3
43	高知県	高知県立嶺北高等学校	2	0	2	1	1	0	3
44	高知県	学校法人土佐塾学園 土佐塾高等学校	2	0	2	1	1	0	3
45	高知県	学校法人明德義塾 明德義塾高等学校	3	0	3	1	1	0	4
46	福岡県	学校法人コンプレガシオン・ド・ノートルダム 明治学園中学校・高等学校	4	4	0	1	1	0	5
47	熊本県	熊本県立天草高等学校	3	0	3	1	1	0	4
48	熊本県	熊本県立済々黉高等学校	2	1	1	1	1	0	3
49	大分県	大分県立佐伯鶴城高等学校	3	2	1	1	1	0	4
			134	35	99	52	43	9	186



稲むらの火 継承宣言



2015年12月の国連総会で11月5日が「世界津波の日」と制定されたのは、安政元年（1854年）11月5日、安政南海地震による津波が現在の和歌山県広川町を襲った際、濱口梧陵が稲むらに火をつけ、村人を高台へ導いて、多くの命を救った「稲むらの火」の故事にちなんだものです。

その後、濱口梧陵は自らの財産を使って村の再生を支援し、将来の津波に備えて堤防を築き、この堤防は昭和21年（1946年）12月の昭和南海地震による津波の被害を最小限に抑えました。

これから私たちが、それぞれの国で防災活動に取り組むうえで、「稲むらの火」の故事に含まれる①人命救助、②地域の復旧・復興、③将来の災害への備え、の3つの要素を考えることは、非常に大切なことです。

本年、私たち世界48カ国の高校生は「稲むらの火」発祥の地である和歌山県に集まり、地震津波などの自然災害から命を守るため、私たちが何をすべきか、私たちに何が出来るかを話し合い、共有しました。

1 災害について知識を得る

- 自然災害に対する備えができていないことが最も憂慮すべき問題であると感じました。
- 生徒全員が学べるよう、自然災害に関する教科課程に組み入れられるアイデアを共有しました。
- 地域住民全員と災害リスク軽減活動（避難訓練など）に取り組んでいきたいと思えます。

2 災害に備え意識を高める

- 災害とは、地域ごとに異なる地理的特徴と関係があると感じました。
- 被災者の話を聞き災害に対する備えの重要性について市民の意識を高めるためのアイデアを共有しました。
- 各種ツール（HOPE情報など）について知り、実際の避難時に人々の助けになるようなユニバーサルデザインの標識を設置する努力をしようと思えます。

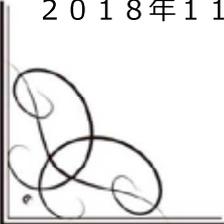
3 災害から生き抜く

- 災害後の復旧・復興について事前に計画を立てることが重要だと感じました。
- 災害前・災害時・災害後の助け合いの重要性について認識を共有しました。
- 地域のリーダーまたは専門家による講演やハザードマップを通して自然災害のリスクについて啓発し、災害時にパニックに陥らないよう明確なルールと計画を作成しようと思えます。

世界中の防災意識をさらに向上させていくため、私たち若い世代が濱口梧陵をはじめとする偉大な先人の志を継承し、このサミットにおいて学んだ「災害から命を守る」ためになすべきことを、それぞれの国において、私たち一人一人が実践していく決意をここに宣言します。

2018年11月1日

「世界津波の日」2018高校生サミット in 和歌山



1. 記録写真 (サミット (10月31日))

◇開会式



1. 記録写真 (サミット (10月31日))

◇ 記念植樹・記念碑除幕式



1. 記録写真 (サミット (10月31日))

◇分科会～プレゼンテーション～



1. 記録写真 (サミット (10月31日))

◇レセプション



1. 記録写真 (サミット (11月1日))

◇分科会～ディスカッション～



1. 記録写真 (サミット (11月1日))

◇ 総会



